

### Ⅲ. 本学における講義保障体験

#### 1. 案内概要

基本アンケートを含む調査依頼は、9月3日に対象校に郵送した。その際、「同志社大学における講義保障体験(授業体験)の申し出について(ご案内)」を同封し、申し出を呼びかけた。

- (1)実施対象日 10月19日(月)～11月24日(火)、12月1日(火)～22日(火)の間の平日。
- (2)実施講時 1講時～4講時
- (3)対象科目 進学希望学部 of 1, 2年次配当の基礎・教養科目(相談のうえ決定)
- (4)講義保障手段 PC通訳、ノートテイク、手話通訳
- (5)参加対象者 聴覚障害のある生徒(学年は問わない)、その父母または進路指導教員
- (6)実施予定数 先着20組

#### 2. 申し出状況

- (1)申し出件数 1組

本学における講義保障体験は、当初申し出のあった先着20組への対応を予定していたが、結果として1組からの申し出に止まった。

#### (2)申し出内訳

	高校種別 (受付順)	生徒本人 (名)	進路指導等 教員(名)	父母 (名)	計
①	特別支援学校(聾学校)	3	5	2	10

参加生徒は、1年生2人、2年生1人であった。実施時期も遅く、また参加人数が少数であるので断定できないが、一般的なオープンキャンパス(夏期)に参加する生徒の学年構成(3年が7割超)とは大きく異なる。これは、健常生徒の進学以上に、希望する大学の受入態勢などについて知っておきたいという生徒、進路等指導教員、父母の意向が反映されたものと理解できる。

### (3) 講義保障体験生徒の障害の程度等級

身体障害者手帳の等級	聴こえの程度	人数
2 級	両耳の聴カレベルがそれぞれ 100 デシベル以上のもの (両耳全ろう)	3 名
3 級	両耳の聴カレベルが 90 デシベル以上のもの (耳介に接しなければ大声語を理解し得ないもの)	0 名
6 級	両耳の聴カレベルが 70 デシベル以上のもの(40 センチメートル以上 の距離で発声された会話を理解し得ないもの)  1側耳の聴カレベルが 90 デシベル以上、他側耳の聴カレベルが 50 デシベル以上のもの	0 名

### (4) 講義保障の方法

#### PC 通訳

(障害生徒の意志を基本として、PC 通訳、ノートテイク、手話通訳から選択してもらった結果、全組とも PC 通訳となった)

講義保障の手段は結果としてPC通訳となった。これは、講義保障体験を受ける当該の障がい生徒が、選択肢として示されたノートテイク、手話通訳(但し、手話を解する者のみ)を、すでに理解または経験済みで、未経験の手段としてのPC通訳を希望した結果といえよう。

### 3. 申し出者が陪席した講義【( )内は開設提供学部】

#### ①心理学(2)-6(心理学部)

### 4. 講義保障体験を受けて

#### 4-1 「生徒」からのヒアリング

##### (1) 講義保障を受けての率直な感想

- ・PCテイクはとてもわかりやすく、自分でまとめるにも役立つと思いました。
- ・PCテイクのおかげでスムーズに講義を受けることが出来たから良かった。
- ・授業時間が長い。

##### (2) 教員の話す情報量についての感想

- ・ちょうどいい範囲だと思います。
- ・僕にとったら多く感じました。
- ・少し多い。

##### (3) 大学の授業を受講した感想(高校での配慮の違いなど)

- ・黒板に書く内容が縦や横にわかれて、わかりにくかったです。
- ・大学の教員が早く話すほど、PCテイクの進み度も速いから、少しどうなのかなと思った。
- ・授業時間が長い。

(4) 通訳スタッフがそばにつくことに対する感想

- ・安心感が感じられた。
- ・ありがたいと感じた。

(5) 大学入学後の講義保障の希望有無(またその理由)

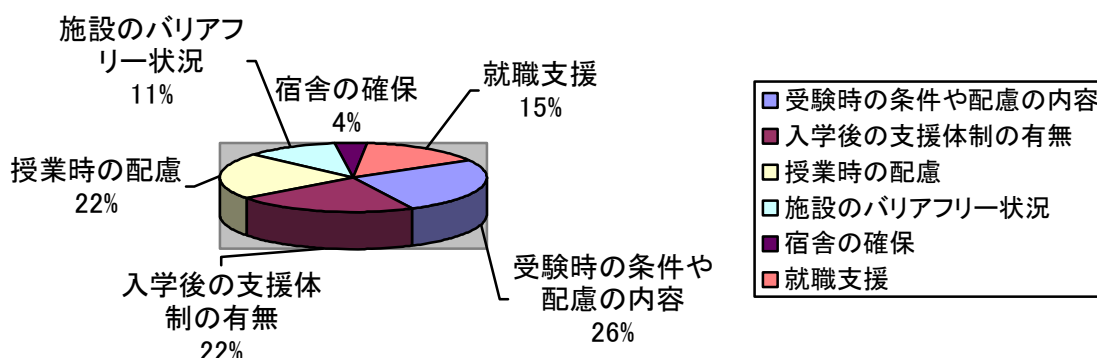
- ・希望したいです。PC・ノートテイクがないと授業内容がまったくつかめないのです。
- ・希望したい。理由:入学したからにはちゃんと講義を理解して、ちゃんと単位とりたいから。
- ・希望したい。

(6) 在学での支援の現状(重複回答可)

1. 授業ノートの提供 ..... 1名
2. 教員が授業内容の資料を工夫..... 0名
3. 要約筆記等補助者の配置..... 0名
4. 手話通訳 ..... 1名
5. ビデオは字幕付のものを使用 ..... 0名
6. その他(下記) ..... 1名
  - ・先生が手話を使用。

(7) 進学するにあたっての不安

受験時の条件や配慮の内容	26%
入学後の支援体制の有無	22%
授業時の配慮	22%
施設のバリアフリー状況	11%
宿舍の確保	4%
就職支援	15%



(8) 講義保障体験後における、大学で講義を受ける不安の解消度

1. すごく解消された …………… 0名
2. まあまあ…………… 2名

〔理由〕

- ・誤字・脱字があった場合、その場で訂正できるのかどうか
- ・PCテイクなど保障がある大学だったら、安心できる。

3. あまり…………… 0名
4. 全く解消されなかった …………… 1名

〔理由〕

- ・私は支援より受験が一番不安なので、全く解消されなかったことになります。

(9) 今回の講義保障体験等を通した大学への進学意欲の向上

1. とても向上した …………… 1名

〔理由〕

- ・元々、大学へ進学する気持ちが強いです。情報保障があると、入学後も安心できるから。

2. まあまあ …………… 2名

〔理由〕

- ・PCテイクなど保障がある大学なら進学するにあたって不安は少なくなった。
- ・保障がよかったので進学意欲が向上しました。

3. あまり …………… 0名

4. 全く向上しなかった…………… 0名

<生徒からのヒアリングを通じて>

実際に大学での講義とその情報保障を、PC通訳を通じて体験してもらったわけだが、まず、「授業時間の長さ」、「話される量の多さ」などから、なかなか集中や理解が伴わなかったことに対する戸惑いが見て取れる。

ヒアリング結果からも、今回の体験を通してすべての不安が解消されたとは言いがたいが、「PCテイクなど保障のある大学なら進学するにあたって不安は少なくなった」という感想があるように、一定の効果はあったといえるだろう。

今回の体験を通した大学への進学意欲の向上に関する問いに対して、参加した3名の学生から、「とても向上した」、「まあまあ」の回答を得たことは、今回の機会が大学進学へのモチベーションを形作るうえでのきっかけとなったことがうかがえる。

4-2 「進路指導等教員」からのヒアリング

(1) 講義保障を受けての率直な感想

- ・やはり他大学と比べ素晴らしい情報保障だと思いました。様々な大学とこのノウハウを共有してもらいたい(大学の体力差はあると思いますが)
- ・講義保障をパソコンテイクが標準と生徒達がとらえてしまわないか、やや心配ではあるが、先進的な取り組みを体験することが出来て良かった。
- ・PC通訳の良さを実感しました。
- ・二人で打ちこんでいても間に合わないこともあり、難しいなと思いました。パソコン画面を見た学生が理解できるのかも別の問題のように感じました。
- ・PCを使用して瞬時に授業内容が解かり、手厚いサポートだと感じました。

- ・あらかじめの準備がされていると思ったが、当日にセットされていたのでバタついて見えた。
- ・パソコンの画面と、講師の先生のお話の時間差が本当に少なく、驚きました。途中で、テキストのページや行数を指示された時なども、きちんと画面に表示されていて、本人が集中していれば、殆ど情報が漏れることはないとわかりました。

## (2) 教員の話す情報量についての感想

- ・ちょうど良いと思います。
- ・多くもなく、少なくもなくと感じました。
- ・今回の講義の先生は、話されるスピードも適度でPCも見やすかったと思った。
- ・専門的な用語も多く、黒板を見たり、テキストを見たり、さらにパソコンを見なければならず、せわしないように感じました。
- ・もう少し具体例等をあげて講義していただければ、理解し易いかと考えています。
- ・ゆっくり話される教員だったので特に問題ないと思う。
- ・特に速過ぎて過多とは感じませんでした。大学の講義としてはちょうどよいくらいに思いました。

## (3) 大学の授業を受講した感想(高校での配慮の違いなど)

- ・PC通訳で情報量としてはほぼ変わらないと思います。大学と高校の授業の本質が異なるので、生徒には難しかったとは思いますが(例えば知らない言葉が出た時)
- ・奈良ろうは手話での授業が基本なので、手話にかわる保障がされていると感じた。
- ・手話のなし世界を生徒が体験し、PC通訳はあったものの生徒がどれだけ自分のもの(理解)にできたか知りたい。
- ・情報量が多いので、自分に必要な情報をどのように選んでいくのかという力が、生徒に必要なだと感じました。
- ・PCを利用し、視覚にも分かり易く理解度が深まると感じました。
- ・黒板の使い方が上手い、資料配布もありよかった。
- ・パソコンの画面を見、板書やスクリーンを見、ノートもとる、というのは慣れるまでは少し大変かもしれません。しかし、充実した時間であると思います。

## (4) 通訳スタッフがそばにつくことに対する感想

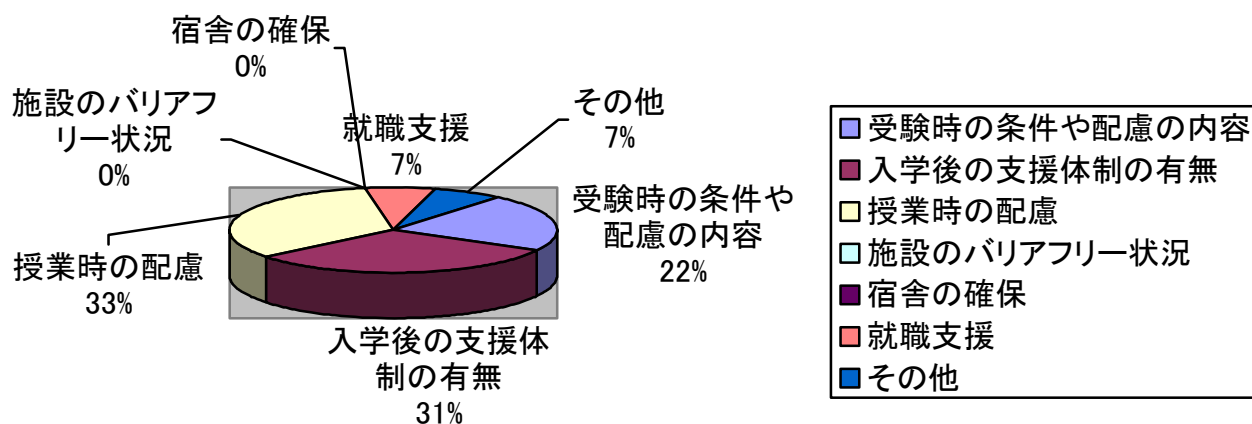
- ・授業に前向きに取り組めるのではないのでしょうか。
- ・高1は初めての体験ということもあり、スタッフの打ち方等に気をとられていた所もあったようだが、なれば気にならず、自分でもノートにかけていたので特に問題はないと感じた。
- ・通訳スタッフがそばにいと気軽に質問できるのでいってくださいと安心すると思います。
- ・心強くもあり、又、それに慣れて頼ってしまう怖さもありと思います。
- ・わかりやすいと思う。
- ・一生懸命、一言一句、打って下さるのですから、ぼんやりしたりしてられないですね。体調を整え、眠くなったりしないよう、講義に臨む姿勢ができてよいと思います。年齢的にも近いスタッフなので、いろいろお話しやすいでしょう。

(5) 大学入学後の講義保障の希望有無(またその理由)

- ・やはりろうの学生には絶対必要だと思います。同志社大学さんのような考えを持った大学が増えることを願っています。
- ・今回見学させて頂いた生徒達には、必要だと思います。
- ・聴覚障がい者にとっては、情報保障が第一だと思うので、ぜひお願いしたいです。
- ・今日のような授業の場合、進むのも早いので、保障がないと授業についていくのは難しいと思うので、ぜひお願いしたいです。
- ・希望しく思います。授業のより深い理解の為に。
- ・必要だと思うので希望すると思う。
- ・希望します。

(6) 進学させるにあたっての不安

受験時の条件や配慮の内容	22%
入学後の支援体制の有無	31%
授業時の配慮	33%
施設のバリアフリー状況	0%
宿舍の確保	0%
就職支援	7%
その他	7%



(7) 講義保障体験後における、大学で講義を受ける不安の解消度

1. すごく解消された ..... 4名

【理由】

- ・昨年も参加させていただき、スタッフの学生の情報サポートもレベル的に差がなく、毎年水準を保っているように思ったので安心できました。
- ・黒板を見るように表示があったり、先生の一言も細かにパソコンから読みとることができたので。
- ・本人の希望にもよるが、聴覚障がい生への情報保障は大きいと考える。
- ・本人のやる気があれば、聴こえる方と同じくらい情報が得られることがわかりましたので。

2. まあまあ ..... 3名

**〔理由〕**

- ・PCでの授業内容を説明等。
- ・授業の内容は伝えられていたと思うので、よかったと思います。その内容を生徒がどのように理解するのかは、また別の問題だと思いますが、本人が努力しないと難しいような気がしました。
- ・学生がやってくれるということなので、同じ気持ちで共通できやすいかなと思う。

3. あまり ..... 0名

4. 全く解消されなかった..... 0名

(8) 今回の講義保障体験等を通した大学への進学意欲の向上

1. とても向上すると思う ..... 5名

**〔理由〕**

- ・実際に昨年担任しているクラスの生徒のうち2人が貴校を志望し、もう1人も隣接している同志社女子大学を志望しました。
- ・実体験は今日の生徒にとってはとても大きなことだと思う。
- ・授業内容が解かる。
- ・障害があっても、一般と同じ授業を受けられ、講義保障があることで、授業に対する不安解消になる
- ・しっかりしたサポートがあることで、安心、感謝の気持ちが持てると思います。又、障害のある方が他にも多くおられることで心強いでしょう。

2. まあまあ ..... 2名

**〔理由〕**

- ・今回参加させて頂いた生徒は、3人とも大学進学を考えています。進学意欲よりも大学に対する不安の方が大きいと思います。今回、体験させて頂いてその不安が軽減したと思います。
- ・本人の努力によるところが大きいと思いました。与えられた情報をどのように理解していくかという訓練が、高校のうちから教えていけないと感じました。

3. あまり ..... 0名

4. 全く向上しないと思う ..... 0名

(9) その他の質問や意見

- ・時間的問題、授業の先生との関係もあるだろうが、出来れば、語学のノートテイクを体験させたかった。
- ・理工系の場合は、専門用語や数式が多く、難しいと聞きました。どのように対応しているのか知りたいです。
- ・言葉の意味が理解できていない時や、内容がわからない時の質問はあとで聞いて答えてもらえるのか？手話ができる生徒も何人いるのかや、やりとりはどのようにしているのか。

**<進路指導等教員からのヒアリングを通じて>**

今回の本学訪問を通じて、ヒアリングからも講義保障について考えていただく機会となったことが明らかである。

### ＜今回の実践を通じて＞

今回の基本アンケートの実施と講義保障体験の試みは、本学への進学実績を有する学校を主たる対象とし、かつ後者においては本学への受験を一定考えている生徒を想定するなど、制限的な枠組みの中での調査であった。従って、そのサンプル数は必ずしも多くなく、今回の結果をもって、一般的傾向として断じることができない諸点も多い。

しかし、これまで後期中等教育を主たる対象としたこの種の調査は見かけないことから、その回答やヒアリングの結果から大学が学ぶ点が多い。とりわけ、今回のよう試みが障がい学生支援をめぐる高大連携の最初の「接点」として果たした意義は大きい。「百聞は一見にしかず」。今後、この接点の継続的な積み重ねが、線から面へと広がりを見せるためには、まず大学サイドがその敷居を低くしていく努力と仕組みを構築することが求められる。